

令和4年度学校自己評価システムシート 国際学院中学校高等学校(高等部)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 教育力の向上 2 グローバルネットワーク活動の推進 3 新型コロナウイルス感染症対策の推進 4 教育活動の積極的な発信
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評価委員	6名
事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 1 4 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	○教育活動について、生徒が前向きに学習に取り組むような仕組み・環境づくりに取り組んでいる。 ○校内のICT環境整備、ICTを活用した教育活動を推進していく。 ○情報リテラシーの教育も強化していく必要がある。 ○知識基盤社会で活躍できる学習力・人間力養成の観点と新学習指導要領の導入に基づいた「3つの資質・能力」の育成に向け、PDCAサイクルを確立していく。 ○観点別の指導と評価をより一体化させていく必要がある。	①学習意欲の向上 ②ICTを活用した学習活動及び情報リテラシー教育の推進 ③進路実績の向上	○習熟度別の長期休業中の講習やつまづき解消のための補習を通じてわかる授業を実践していく。 ○観点別評価における指導と評価の一体化を図る。 ○研究授業や授業アンケートを活用し、授業改善を図る。 ○ICTを活用した授業実践を行う。 ○情報セキュリティ講演を実施する。 ○最新の入試情報を収集するとともに、個々の生徒に応じた進路指導を考え、実践していく。 ○一般入試向けの進路ガイダンスを教員、生徒保護者向けに実施する。	○それぞれの生徒に応じた講習、補習が実施できたか。 ○観点別評価を指導に適切に活かすことができたか。 ○研究授業や授業アンケートの結果を授業改善に活かすことができたか。 ○校内ネットワーク環境や通信機器の整備を進めることができたか。 ○ICTを活用した授業実践がふえているか。 ○情報セキュリティ講演を実施することができたか。 ○個々の生徒に応じた進路指導ができたか。 ○ガイダンスの実施を通して、適切な情報を発信することができたか。	①長期休業中の講習、組織的なつまづき解消の補習を行った。また、生徒への授業アンケート結果をもとに面談を実施、また研究授業の協議を通して授業改善を図り、生徒の学習意欲の向上に努めている。 ②行事のライブ配信やオンデマンド配信、プレゼンテーションで積極的なICT活用を促す一方、その使い方についても教育している。 ③大学進学率51.8%、難関大学2名合格している。(1月13日現在)	B
2	○生徒、保護者、教職員ともどもESDやSDGsについての理解が深まり、年々その実践的な活動が活発になっている。昨年度はコロナ禍において海外研修が実施できない状況であったが、今年度は国内研修に切り替えて、コース別にESDやSDGsの体験的な学習を行う。また、オンラインによる国際交流をさらに積極的に活用する。 ○グローバルな視野で、ESDやSDGsを理解するだけでなく、生徒、教員全体が積極的に行動できるようにしていくこと、その成果をアンケートやチェックリストなどを活用し、見える化していくことが課題である。	①ESD、SDGs達成に向けた教育活動の推進 ②地域との連携や海外交流などの推進	○日頃の教育活動や学校行事の中でSDGsを意識した取り組みを実践する。 ○ICTを活用したオンライン交流を実施し、異文化理解やグローバルな視点でSDGsについて情報交換、実践をする。 ○地域の開放講座に積極的に参加し、交流を図る。 ○SDGsの目標達成のため本校の教育活動の成果を図るアンケート調査を実施する。	○ESDやSDGsに対する取り組みの成果が、生徒、教職員で実感することができたか。 ○コロナ禍において、オンライン交流を通じた国際交流の中でESDやSDGsの取組を推進することができたか。	①生徒が取り組むことを決めたSDGs目標12を達成するため様々なリサイクル活動を行っており、今年度も回収できるものを増やしている。 ②オンラインでマレーシア、台湾の生徒と交流を行った。地域との連携では学校開放講座を陸上競技で実施することができた。 ③SDGsの目標達成のため本校の教育活動がどの程度有効かを図るためにアンケート調査を実施している。また、ユネスコスクール定期レビューでは上から二つめの評価を得ることができた。	B
3	○新型コロナウイルス感染拡大防止しながら、授業、部活動、学校行事などの教育の質を確保していく。 ○新型コロナウイルスによる影響を踏まえ、心身の健康を保つための学校教育の工夫や家庭での過ごし方の啓発活動など、健康管理法について改善していくことが必要である。	①感染防止に向けた安全衛生管理 ②教育活動に関する機動的対応 ③生徒及び保護者等に対する適切な連絡体制の確保及び情報発信 ④国の動向に対する適切な対応	○学校内外での感染防止対策の実施を徹底する。 ○ICTを活用しながら、感染対策と教育活動をさらに充実させていく。 ○感染リスクの高い場面での指導を継続する。 ○感染拡大防止のために、関係機関との連絡体制を確認し、必要な情報を生徒、保護者、教職員に適宜発信する。 ○国や地方自治体からの新しい情報を常に収集し、日々の教育活動の反映する。	○新型コロナウイルス感染防止に向けた取組を教職員、生徒が協力し、行動することができたか。 ○感染対策をしながら、教育活動の質を高めることができたか。 ○感染状況に応じて、適切な対応をすることができたか。	①定期的な感染対策への呼びかけ、校内の安全管理を徹底している。 ②感染状況や県の対応に応じて、教育活動の充実を図っている。 ③BLENDを使用し、保健に関する情報発信を行っている。 ④Microsoft Teamsを使い、教職員に情報を共有することができている。	A
4	○本校の建学の精神、教育方針に基づいた教育活動の成果を積極的に発信しする必要がある。 ○入学後の生徒や保護者に調査をし、その結果を授業などの教育活動にどのように生かしていくかを考える必要がある。	①教育活動を発信することによる生徒の自己効力感の醸成 ②教育の成果を広く地域住民、学校関係者、受験生保護者に周知	○生徒の教育活動の成果をホームページなどで発信する。 ○部活動や課外活動の成果を積極的に発信する。 ○テキストのみではなく映像を発信していく。 ○ホームページだけでなくSNSも活用していく。	○活動の成果が生徒の意欲的な取り組みにつながっているか。 ○地域住民、学校関係者、受験生保護者の印象が向上し、受験者数、入学人数ともに昨年度を上回ることができたか。	①生徒の活躍を学校紹介動画やホームページに積極的に発信することで生徒の自己効力感を高めることができた。 ②生徒の活動をホームページなどで積極的に発信することができた。1月に行われた高校推薦入試では、昨年度と比較し、単願者数は微増、受験者数は微減した。	B

学 校 評 価	
実施日	令和5年2月1日
評価委員からの意見・要望・評価等	
国際理解教育について、国際学院は伊奈町に拠点を置きながら、グローバルに発展させていることがうかがえた。 目標達成のための現状と課題をそれぞれ明確にするとうい。 学校行事では、さらに生徒同士の横、縦のつながりや交流ができるように工夫してもらいたい。	
持続可能な教育ESD教育の推進、職業選択にかかわる生き方指導などチェックリストを活用するなどの検討が必要である。 インターネット教材の活用は継続して進めてほしいが、著作権問題については、更に配慮していくことが必要である。 コロナ禍でも生徒が生き生きと学んでいる様子が分かった。	
ICTを活用したオンライン授業のメリットデメリットを把握し、ICTのソフト面を充実させていくことが重要である。 新型コロナウイルス感染状況の継続的な発信は、保護者に安心感を与えたと考えられる。 心が不安定になっている子どもがいると感じており、心のケアが必要である。	
本校の教育方針に同意する優秀な生徒が、より多く入学するために、生徒募集には力を入れることが必要である。 入学後の生徒の満足度、保護者の受け止め方等をリサーチして、その結果を授業に反映させていく必要がある。 活躍する卒業生を学校として把握していくことを試みてはどうか。	

令和4年度学校自己評価システムシート (国際学院中学校高等学校・中高一貫)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 豊かな人格形成 2 確かな学習指導 3 新型コロナウイルス感染防止対策の推進 4 広報活動の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評価委員	6名
事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 1 4 日 現 在)		実 施 日 令 和 5 年 2 月 1 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	評価委員からの意見・要望・評価等
1	①建学の精神、教育方針に基づいた人格の形成を目指している。 ②国連グローバルコンパクト加盟校として、SDGsの観点を踏まえ教育活動を推進している。 ③ユネスコスクール加盟校として、海外生徒との親交を深める活動を継続している。また、関連した奉仕活動等も実施している。 ④規則正しい生活習慣と、平素から学習に励む習慣を身につけることを中心とした指導を行っている。 ○生徒の望ましい成長のために、上記の教育を年間通じて不断に実践していくことが課題である。	①生徒が常日頃から建学の精神、教育方針に基づいた行動 ②学校行事のSDGsを踏まえた実施 ③ユネスコスクール加盟校との生徒同士の交流。 ③自主的な国際貢献に対する態度の涵養。 ④規則正しい生活習慣と、学習に経常的に励む習慣を身につける。 ④自主自律の態度の涵養。	①挨拶の励行、清掃の徹底、時間厳守など、凡事を徹底する指導を、常時実践する。 ②五峯祭などの教育活動公開の機会に、平素学校で行っているSDGs活動を報告するとともにその推進を図る。 ③オンラインを活用して、国際交流を図り、生徒間での親交を深める。また、奉仕活動を継続して行う。 ④生活記録表や学習時間表によって、生活管理・学習管理を行う。また、生徒会活動を活性化し、生徒が学校行事などに参画できるようにする。	①生徒会あいさつ運動ができたか。 ②五峯祭・修学旅行にて、SDGs関連の活動や発表ができたか。 ③さいたまユネスコ協会と連携したか。ネパールへの募金や手紙の翻訳をしたか。 ③オンライン国際交流を実施できたか。 ④家庭学習時間が向上したか。 ○1週間で12時間 ④定期考査前学習時間が向上したか。 ○2週間で40時間 ④生徒会活動が、予定通りに行われるとともに、よい校風に寄与できたか。	①挨拶は、生徒の主体的取り組みとして、先輩から後輩へ受け継がれて継続できている。 ②中学生徒会を中心に、身近なSDGsの学びを道徳の時間、五峯祭、オープンスクールなどで披露した。 ③オンライン国際交流は、台湾とマレーシアの学校と実施した。奉仕活動としては、ネパール教育支援募金への寄付と、手紙の翻訳を行った。 ④定期考査前の家庭学習時間が100時間を超える中学生が2名いた。但し、学習時間については、生徒によって差があり、課題が残る。	B	SDGsの考えに鑑み、日常の教育活動を実践する。そのためにはまず教職員全員が、グローバルコンパクトの目標をよく理解し、その教育実践機会をとらえて、改善していく必要がある。 学習時間記録は、よいものを可視化し表彰することで、生徒の意欲喚起につなげることができた。中等部では生活の記録は担任の担当だが、朝礼や会議等で関係職員と共有している。この取り組みを継続し、形骸化しないように生徒指導に生かしていくことが課題である。	国際理解教育について、国際学院は伊奈町に拠点を置きながら、グローバルに発展させていることがうかがえた。 目標達成のための現状と課題をそれぞれ明確にするとよい。 学校行事では、さらに生徒同士の横、縦のつながりや交流ができるように工夫してもらいたい。
2	①新学習指導要領に則り、より深い分野理解を目指して、授業を実践する。 ②特に英語・数学・国語については、多くの時間を割き、本質や核心を得る授業を展開する。また、先取り学習も推進する。 ③検定級取得を推奨するため、放課後講習や個別指導の時間を設けている。 ④タブレット型PC等を活用し、アクティブラーニング型授業を実施する。 ○生徒の望ましい成長のために、上記の教育を年間通じて不断に実践していくことが課題である。	①平素の授業が、大学進学指導に繋がるよう、シラバスに基づいた実施。 ②内容理解を深めるとともに、生徒の興味関心を高める英数国の先取り学習。 ③生徒の受験意欲喚起と各種検定級取得。 ④オンラインの機器を有効に活用した教育活動。	①中高一貫部の6年間の目標を踏まえ、年度当初に授業年間計画及び数値目標を作成する。 ②先取り学習は、生徒の内容理解や興味・関心の度合を踏まえたうえで、進度を柔軟に変更しながら展開する。 ③生徒の検定級取得のため、朝学習や放課後講習を実施する。 ④生徒はiPadを所有する。学校はMicrosoft Teams を活用し、教材提供、学習状況管理などを行う。 ④インターネット教材などの使用に関する教員研修を行い、日々注意喚起を行う。	①定期考査目標が達成できたか。 ○平均点の上昇 ②私学テストで偏差値が向上したか。 ○各教科で+2 ②GTECでスコア目標を達成したか。 ○中3で690(英検準2級相当)が半数 ○高2で960(英検2級相当)が半数 ②県学力調査で県平均値を上回ったか。 ②難関有名大学合格者数が増加したか。 ③英語検定目標が達成できたか。 ○中学で2級合格者輩出 ○高校で準1級合格者輩出 ④タブレット教材を活用できたか。 ○自主的な学習時間の向上 ○主要教科での必活用	①教科担当者同士の連携によりよりよい授業づくりが、実践できた。主要5教科での目標点到達には至らなかった。 ②私学テスト偏差値では、英語と数学の偏差値が向上した。 ②GTECでは、中3の半数が690を超えた。また、高2では目標に届かなかった。 ②県学力調査では、中2数学と中3国語以外は全教科で平均値を上回った。 ③英語検定では目標を達成した。 ④iPadを使用した学習は、多くの教科で取り入れられた。特に数学、理科、社会の授業では活発に行われた。	B	授業力向上に向けた教員研修が十分でなかった。授業見学週間を設けているが、士気に乏しい。次年度は、よりよい授業の実践を目指し、各教科での風通しの良い意見交換を活発に行い、改善を目指す。 定期考査後の資料をグラフ化し、事後指導に活かす。 検定期時には放課後講習にて対策ができるよう、計画する。	持続可能な教育ESD教育の推進、職業選択にかかわる生き方指導などチェックリストを活用するなどの検討が必要である。 インターネット教材の活用は継続して進めてほしいが、著作権問題については、更に配慮していくことが必要である。 コロナ禍でも生徒が生き生きと学んでいる様子が分かった。
3	①新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中で、生徒及び教職員の安全衛生を管理しながら、授業、部活動、学校行事などの教育の質を確保していく必要がある。	○感染防止に向けた衛生管理。 ○生徒及び保護者等への適切な情報発信。 ○自治体の要請に基づいた適切な対応。	○感染防止対策マニュアルに基づいた教育活動を実施する。 ○Microsoft Teamsを使用した健康管理や情報発信を行う。 ○双方を前提としたオンライン授業を実施する。	○新型コロナウイルス感染防止に向けた取組を教職員、生徒が協力してすることができたか。 ○感染対策をしながら、教育活動の質を確保することができたか。	毎日の検温確認から、平時の授業教材迄、Microsoft Teamsで共有できている。双方向型オンライン授業もいつでも行える状態を維持している。	A	現在では、Microsoft Teamsと教務システムBLENDが、保護者との主要連絡ツールとなった。次年度は利便性のある本システムを堅持し、かつ教育環境を向上させることが課題である。	ICTを活用したオンライン授業のメリットデメリットを把握し、ICTのソフト面を充実させていくことが重要である。 新型コロナウイルス感染状況の継続的な発信は、保護者に安心感を与えたと考えられる。
4	①学校の教育活動をホームページなどで発信していく必要がある。学校が取り組んでいる活動を広く地域や受験生に広く知ってもらうことで、それらの活動をさらに推進していくことが課題である。	生徒の活躍や学校の行事等の広報。 地域住民、学校関係者、受験生保護者などが、学校に関心を持つ。	○生徒の教育活動の成果をホームページや学校説明会などで積極的に発信する。 ○教育方針などを発信する。	○学校説明会申込者350名だったか。(昨年度は320名) ○本校の教育活動に興味関心を持つ人たちが増えたか。	○年間を通して、生徒の活躍をHPに掲載した。 ○学校説明会の申込者数は292名で、指標に届かなかった。	B	学校説明会の時期や内容を見直し、計画する。 地域に愛される学校を目指し、教育の成果を披露する機会を増やす。	本校の教育方針に同意する優秀な生徒が、より多く入学するために、生徒募集には力を入れることが必要である。入学後の生徒の満足度、少人数教育への保護者の受け止め方等をリサーチして、その結果を授業に反映させていく必要がある。